



唯一無二の 印章を彫る。

六郷に
息づく職人の気鋭。

甲州手彫印章は、六郷を中心産地として作られてきた

長い歴史を有する工芸品。

平成12年には経済産業大臣から

伝統的工芸品の指定を受けるなど、高い品質を誇ります。

地域に根差した印章産業とその文化は脈々と受け継がれ、

優れた職人の技は、今もなお伝統を守りながら、

進化し続けています。

「印章は、唯一無二でなければならない」という

思いを胸に彫り続ける

甲州手彫印章 伝統工芸士・望月煌雅くろさんが語ります。

※印章は、すなわち、ほんこのことを指します。

はんこの町に生まれ、
自然に目指した職人の道

「祖父が創業したのは昭和15年ごろだと聞いています。当時すでにこの辺りは印章の産地だったので、祖父は印章の販売をしていました。父は手彫りの技術を身に付け、販売と彫りの両方の仕事をするようになりました。」

かつて父が使っていたこの工房は、私の遊び場だったので、はんこはいつも私の近くにあっただんです。小学生の頃は、この地域がはんこの産地として栄えていたので、同級生の親のほと

んどが、はんこに関わる仕事をしていました。そんな環境の中で育ったので、私も友達も卒業文集に『将来、はんこ屋さんになる』と書いていたんです」

印章は自己の分身。
唯一無二でなければならぬ。

「印章は自己を証明するもの。私たち作り手は、字を選びバランスを整え、印材に字を書いて彫っていく、全ての工程を手作業で行うことで、唯一無二の印章を生み出します。印影は

さまざまな場面での目に触れるので、その印影から持ち主がどんな人であるのか想像できます。つまり印影は本人の分身としての役割を果たしているんです。私は印章の注文をいただく際に必ず、お客さまと直接会ってお話を伺ったり、インターネットでの場合でも何回かやり取りをしたりしています。そうすることで、彫っている時にお客さまのことを思い、お客さま一人一人の分身としての印章を完成させることができるのです」

時を超えて
受け継がれていく印章

「昔の印章は高価な印材を使っていることが多く、おじいさんの印章の印面を削って彫り直し、お孫さんが使うといったケースもあります。象牙など貴重な印材はこのように改刻し、受け継いでいってほしいです。」

最近では、若い方や外国人の間で落款印らくかんとんの人氣が高まっています。落款印は遊びの要素があり、芸術としての側面も備えた面白さがあることから、名刺や手紙などに使っていたいただいても楽しめます。

私は伝統工芸士として都内の体験会などに出席したり、県内の小学生に毎年指導をしたりしています。特に子どもたちには、山梨の伝統的工芸品を知ってもらい、ものづくりの楽しさを感じてほしいと思います」



望月 煌雅さん

経済産業大臣指定伝統的工芸品 甲州手彫印章 伝統工芸士

厚生労働省認定一級印章彫刻技能士

厚生労働省ものづくりマイスター

第26回全国技能グランプリ優勝など、受賞歴多数

望月煌雅工房 市川三郷町岩間1134-1 / TEL.0556-32-3121



落款印の入った煌雅さんの名刺には、遊び心が感じられる



伝統工芸 青山スクエアにおいて
「甲州手彫印章 伝統工芸士
望月煌雅展」開催

- 開催期間 12月15日(金)～20日(水)
- 開催時間 11:00～19:00(最終日は17:00まで)
- 開催場所 伝統工芸 青山スクエア
(東京都港区赤坂8-1-22 TEL.03-5785-1301)



表紙の印章「風林火山」は煌雅さんの作品

一つ一つを大切に、
果てしない追求は続く

「最近は何でも個性と受け取られがちですが、個性を出したつもりで文字を極端に曲げてしまうと違う文字になってしまいます。文字には決まった形があり、そこからはみ出さずに、しっかりとした知識の中でバランス良く字を収めることが大切です。ですから、印面に文字を配置していく工程である布字（ぬしじ）には、時間をかけるようにしています。日本人として生まれたら、誰もが印章が必要となります。その人の分身となり得る唯一無二の印章を丁寧に制作し、使う方に気に入っていただけの良い物を作る、それこそが職人としての喜びです」



伝統を守りつつ 創意工夫で切り開く 印章の未来

絶滅の危機にある野生生物のシルエットを印面にした「WITH STAMP」
岸 WITH ケープシロカツオドリ(ネーム印) 金田 WITH リカオン(チタン印)

はんこをボールペンの頭に付けるという発想から生まれた
ネームペン「スタンペン」。

誰もが一度は目にしたことのあるこの商品は
はんこの里・六郷に昭和39年に創業した、谷川商事の初代社長が
お客さまのニーズに応え考案し、製品化したものです。

「新しいもの、良いものをつくろう」と

創意工夫を重ねながら印章の未来を切り開き続ける谷川商事。
営業部の雨宮義徳さんに、新たな取り組みについて伺いました。

印章業界の可能性を広げた 画期的な商品開発

「印章ケースの製造からスタートした当社は、初代社長のアイデアで昭和58年にネームペン『スタンペン』を開発して以来、本格的にはんこの製造・販売にも進出しました。それまでほんこは専門店で購入するものでしたが、ネームペンの発売により文房具店でも扱われるようになったのです。この商品を生み出した当社は、印章業界が文房具業界に一步踏み込む先駆的な役割を果たしたといえると思います。『新しいもの、良いものをつくろう』という先代の思いは今も受け継がれ、製造、営業などの部署に関係なく、従業員の誰もが新商品の提案をできるシステムは続いています」



文房具業界に一步踏み込む先駆的な商品となったネームペン「スタンペン」

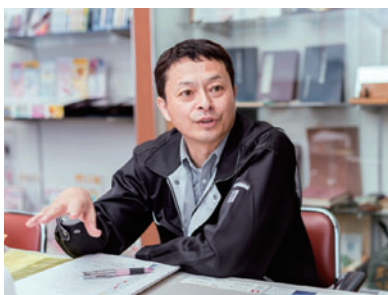
WFジャパンとのコラボ商品 「WITH STAMP」

谷川商事では今年一年、世界自然保護基金(WWF)ジャパンとのコラボレーション商品として、絶滅の恐れがある野生生物のシルエットを名字に組み込んだはんこ「WITH STAMP」を製造・販売しています。日本独自の印章文化に野生生物保護活動という企画を取り入れた新しい視点は、デザインの斬新性やネットで購入できる手軽さ、話題性もあり、これまで印章にあまりなじみがなかった若い世代にも人気を博しています。

『WITH STAMP』に使用している動物は111種類で、字のイメージとマッチする組み合わせを考えながら、名字によく使用される漢字約2万2千種類をデザインしました。『WITH STAMP』のサイトに『名字』を入力すると動物のシルエットが入った印影の見本を見ることが出来ます。動物の解説も記載されているので、興味深い内容になっています。

受注生産が一般的な印章業界において、見本データとはいえ、あらかじめ2万種類以上作っておくことは前例のない挑戦でした。きれいな印影となるベストなデフォルメ感を模索する中、ネーム印(浸透印)と、銀行印としても使用可能なチタン印を開発しました。この商品の購入代金の一部は、野生生物保護活動の寄付金になります。はんこを通して支援活動ができた

サイトを通じたコミュニケーションが生まれ、たりという新しい取り組みに携われたことは、貴重な経験になったと感じています」



雨宮 義徳さん

谷川商事株式会社 営業部

谷川商事株式会社
市川三郷町岩間437 / TEL.0556-32-3131



期間限定商品「WITH STAMP」は、平成29年12月までネット販売している

WITH STAMP

検索